

令和5年度

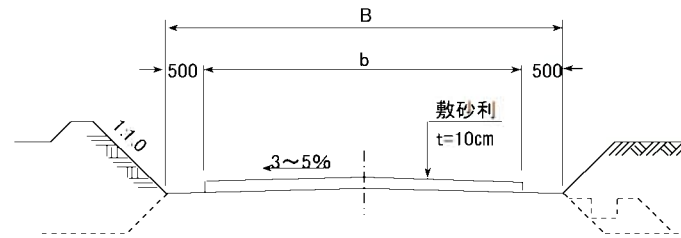
標準構造図

多比良地区

目 録

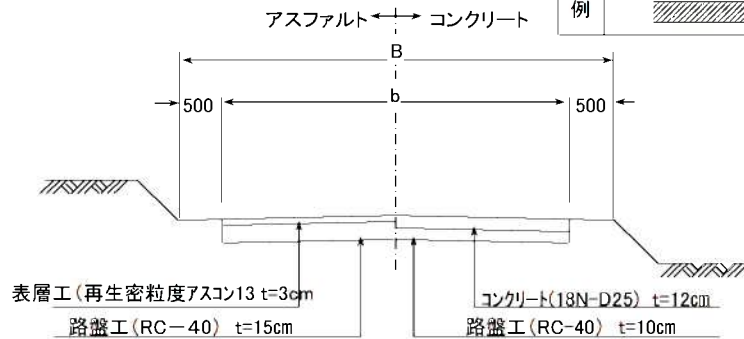
図面番号	図面名称	備考
1	道路工、取付舗装工	
2	排水路工	
3	道路横断工	
4	落差工-1	
5	落差工-2	
6	継手水槽工	
7	PEφ300	
8	市道舗装断復旧工	
9	果樹棚	
10	防風網	
11	防獣柵	
12	防竹シート工	
13	暗渠排水工	

道 路 工



取付舗装工

凡例
舗装区分-延長-平積
ア-10-40



規格	数量										
	再生密粒度アスコン (13)		コンクリート (18N-D25)		プライムコート	切 碎		型 枠	伸 縮 板	土 工	
	厚さ	数量	厚さ	数量	RK-3	厚さ	数量			掘削積込	運搬土
cm	t	cm	m ²	kl	cm	m ²	m ²	m ²	m ²	(14)	
アスファルト	3	7.61	-	-	0.126	15	19.1	-	-	18	(14)
コンクリート	-	-	12	12.72	-	10	12.7	6.0	2.4	22	(18)

- (注) 1. コンクリート舗装表面は、ほうき仕上げとする。
2. コンクリート舗装の伸縮板は延長方向5m毎に設置すること。
3. 運搬土については地区の実状にあわせ計上すること。
4. コンクリート舗装のコンクリート水セメント比は、60%以下とする。

規格	数量				備 考
	項 目		10m当り		
	不陸整正	路面転圧	敷砂利		
	m ²	m ²	RC-40 t=10cm m ²	敷均し m ²	
B=3 b=2	30.0	30.0	2.12	20	
B=4 b=3	40.0	40.0	3.48	30	
B=5 b=4	50.0	50.0	4.64	40	
B=6 b=5	60.0	60.0	5.80	50	

- (注) 1. 路面の横断勾配は、3~5%程度とする。
2. 隅切は、2mを標準とする。

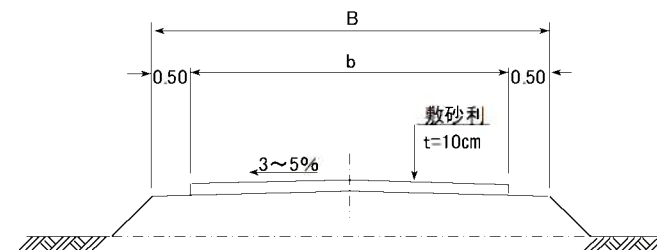
図面の名称	図面番号
道路工, 取付舗装工 標準構造図	1-1

適用区分

1. 取付舗装は、舗装道路との取付力所に施工することができる。
2. 取付舗装の延長は、全幅が4.5m以上は、10mとし、4.5m未満は、5mを標準とする。

算出基礎

道路工



参考図は、1型である。

項目	算式	10m当り	単位	備考
不陸整正	モーターグレーダー	$B \times 10.0$	m^2	
路面転圧		$B \times 10.0$	m^2	
敷砂利		$b \times t \times 1.16(1.06) \times 10.0$	m^3	(B=3mは人力とし、0又は6%)
		—		

注意事項

1. 盛土は、整地工に含まれる。
2. 耳芝は、必要により別途計上する。
3. コンクリート舗装の型枠、伸縮目地は現地状況に応じて変更する。

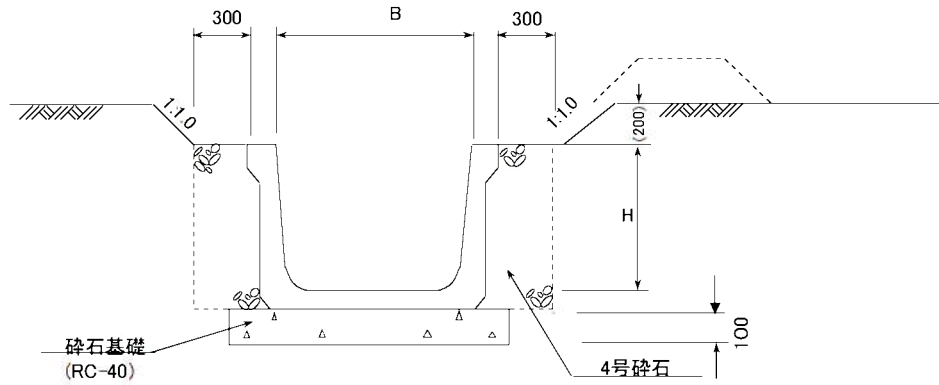
取付舗装工

項目	算式	1a当り	単位	備考
掘削		$100 \times t$	m^3	
運搬土		$100 \times t \times 0.8$	〃	
再生密粒アスコン		$100 \times t \times 2.35 \times 1.08$	〃	
コンクリート		$100 \times t \times 1.06$	〃	
再生碎石		$100 \times t \times 1.27$	〃	
型枠			m^2	
	Co	$100 \times 1/4 \times t \times 2$		
伸縮板		$100 \times 1/4 \times 1/5 \times t \times 4$	〃	

図面の名称	図面番号
道路工、取付舗装工 標準構造図	1-2

凡例	規格	×	延長
	RDU300	×	138
例			

排水路工



抵抗モーメント表

規格	抵抗モーメント kg·m
H = 300	50
H = 400	60
H = 500	90
H = 600	130
H = 800	250
H = 900	320
H = 1,000	410
H = 1,200	660

規格	寸法			数量						備考	
	B	H	L	掘削	埋戻	砕石埋戻	10m当り				砕石基礎 (RC-40)
							基面整 正	法面仕上	有孔U型		
mm			m ³			m			本	m ²	
RDU 300	300	300	2,000	4.0	—	2.1	5.9	5.7	4.98	5.9	

- (注)
- 目地は、モルタル(配合1:3)を使用し、目地間隔は10mm程度とする。
 - 敷仕上、埋戻し、転圧は入念に行うこと。
 - 継手水槽との接続部は、原則として、水槽内面まで布設すること。
 - 断面図の(200)は参考値である。
 - 砕石基礎は必要により別途計上する。

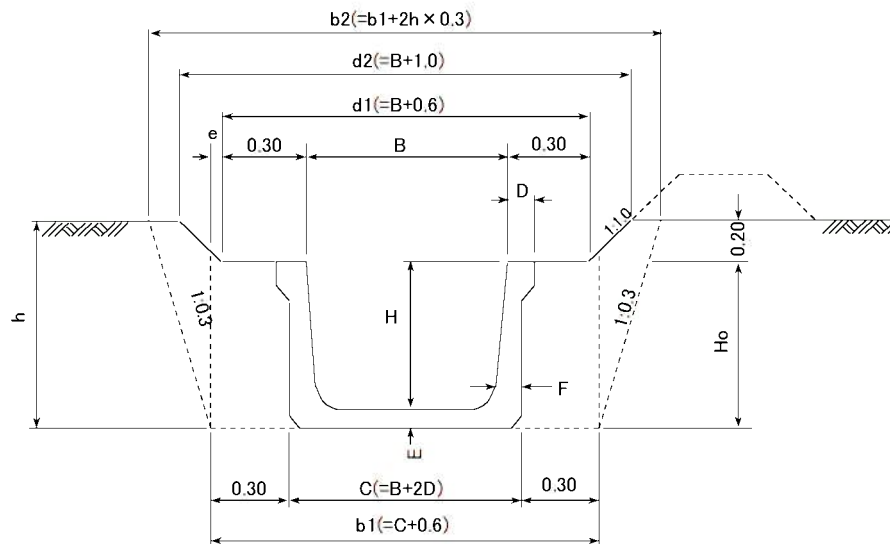
掘削幅	0.99	数量計算	掘削	$((0.99 \times 0.345) + 0.59 \times 0.10) \times 14.01$
掘削高	0.345		砕石埋戻	$(0.30 \times 0.345) \times 2 \times 10 = 2.07$
砕石幅	0.3		基面整正	$0.59 \times 10 = 5.90$
砕石高	0.345		法面仕上	$0.2 \times \sqrt{2} \times 2 \times 10 = 5.66$
砕石基礎	0.59		有孔U型	1本2m 4.98
			砕石基礎	$0.59 \times 10 = 5.90$

図面の名称	図面番号
排水路工-2 標準構造図	2-1

適用区分

1. 主として、断面600×600以下の一般的な排水路に使用する。
2. 原則として、基礎工は設けないものとする。
3. 掘削幅に適した掘削機械規格の選定をする。

算出基礎



注意事項

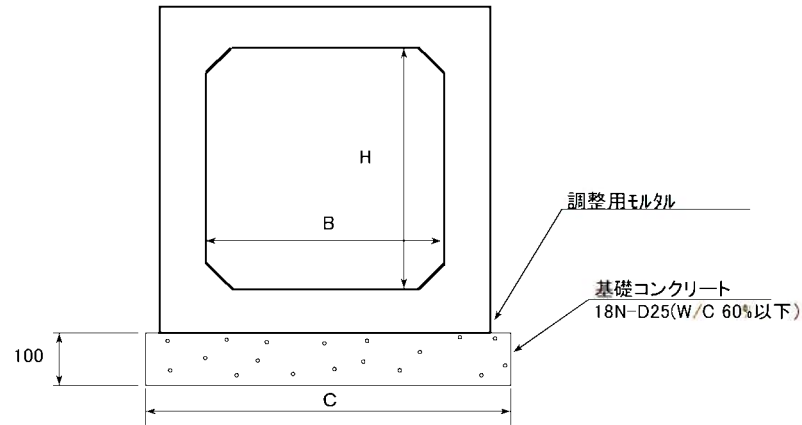
1. 最大許容流速は、2年確率流量に対して、「水路工」技術書(表-6.1.4)の3.00m/sの1.5倍(4.5m/s)を限度として適用する。ただし、跳水等の危険がある場合には浸食、飛散等の対策を考慮すること。なお、粗度係数は、0.014とする。
2. 断面600×600以上については、柵梁工との経済比較、及び現場条件等を考慮して使用する。

規格	寸 法 (mm)												
	B	H	C	D	E	F	Ho	b1	b2	d1	d2	e	h
RDU 300	300	300	390	45	45	45	345	990	—	900	1,300	45	545
〃 400	400	400	490	〃	〃	〃	445	1,090	—	1,000	1,400	〃	645
〃 500	500	500	600	50	50	50	550	1,200	1,650	1,100	1,500	50	750
〃 600	600	600	720	60	60	60	660	1,320	1,836	1,200	1,600	60	860
〃 800x600	800	〃	950	75	75	75	675	1,550	2,075	1,400	1,800	75	875
〃 1000x600	1,000	〃	1,150	〃	〃	〃	〃	1,750	2,275	1,600	2,000	〃	〃
〃 800x800	800	800	960	80	80	80	880	1,560	2,208	1,400	1,800	80	1,080
〃 1000x800	1,000	〃	1,160	〃	〃	〃	〃	1,760	2,408	1,600	2,000	〃	〃
〃 1200x900	1,200	900	1,370	85	85	85	985	1,970	2,681	1,800	2,200	85	1,185
〃 1000x1000	1,000	1,000	1,180	90	90	90	1,090	1,780	2,554	1,600	2,000	90	1,290
〃 1200x1200	1,200	1,200	1,390	95	95	95	1,295	1,990	2,887	1,800	2,200	95	1,495

項 目		算 式	10m当り	単 位	備 考
掘 削	H ≤ 400	$\{(Ho \times b1) + (d1 + d2) \times 1/2 \times 0.2 + e^2\} \times 10.0$		m ³	
	H > 400	$\{(b1 + b2) \times 1/2 \times h\} \times 10.0$			
埋 戻	H ≤ 400	$\{(Ho \times 0.3) \times 2 + e^2\} \times 10.0$		"	
	H > 400	$[(0.3 \times 2) + (h \times 0.3)] \times h - \{0.60 - (2 \times D) + 0.2\} \times 0.2\} \times 10.0$			
整形工(基面整正)		C × 10.0		m ²	
法面仕上		$(0.2 \times \sqrt{2} \times 2) \times 10.0$		"	

図面の名称	図面番号
排水路工-1 標準構造図	2-2

道路横断工



規格	寸法			数量						備考
	B (mm)	H (mm)	C (mm)	掘削 (m ²)	埋戻 碎石40-0 (m ²)	基面整正 (m ²)	コンクリート 18N-D25 (m ²)	型枠 (m ²)	BOX カルハート (本)	
BXO-300×250	-14.25	300	250	600	5.9	3.6	6.0	0.600	2.00	5.00
BXO-300	-14.25	300	300	600	7.3	4.3	6.0	0.600	2.00	5.00
BXO-3050	-14.25	300	500	600	10.4	6.5	6.0	0.600	2.00	5.00
BXO-360	-14.25	360	360	660	8.5	4.9	6.6	0.660	2.00	5.00
BXO-400	-14.25	400	400	700	9.9	5.6	7.0	0.700	2.00	5.00
BXO-4060	-14.25	400	600	700	13.6	8.0	7.0	0.700	2.00	5.00
BXO-450	-14.25	450	450	750	11.1	6.1	7.5	0.750	2.00	5.00
BXO-500	-14.25	500	500	800	12.3	6.6	8.0	0.800	2.00	5.00
BXO-5070	-14.25	500	700	800	16.8	9.4	8.0	0.800	2.00	5.00
BXO-600	-14.25	600	600	900	15.8	8.2	9.0	0.900	2.00	5.00
BXO-800	-14.25	800	800	1100	22.8	10.9	11.0	1.100	2.00	5.00
BXO-900	-14.25	900	900	1200	26.4	12.2	12.0	1.200	2.00	5.00
BXO-1000x800	-14.25	1000	800	1400	25.9	11.1	14.0	1.400	2.00	5.00
BXO-1000x1000	-14.25	1000	1000	1400	31.1	13.8	14.0	1.400	2.00	5.00
BXO-1000x1200	-14.25	1000	1200	1400	36.6	16.8	14.0	1.400	2.00	5.00
BXO-1000x1600	-14.25	1000	1600	1400	48.2	23.5	14.0	1.400	2.00	5.00
BXO-1200x800	-14.25	1200	800	1600	28.2	11.1	16.0	1.600	2.00	5.00
BXO-1200x1000	-14.25	1200	1000	1600	33.9	13.8	16.0	1.600	2.00	5.00
BXO-1200x1200	-14.25	1200	1200	1600	39.7	16.8	16.0	1.600	2.00	5.00
BXO-1200x1600	-14.25	1200	1600	1600	52.2	23.5	16.0	1.600	2.00	5.00
BXO-1400x800	-14.25	1400	800	1800	30.6	11.1	18.0	1.800	2.00	5.00
BXO-1400x1200	-14.25	1400	1200	1800	42.9	16.8	18.0	1.800	2.00	5.00
BXO-1400x1400	-14.25	1400	1400	1800	49.4	20.0	18.0	1.800	2.00	5.00
BXO-1500x1000	-14.25	1500	1000	1900	39.6	14.4	19.0	1.900	2.00	5.00
BXO-1500x1200	-14.25	1500	1200	1900	46.1	17.5	19.0	1.900	2.00	5.00
BXO-1500x1500	-14.25	1500	1500	1900	56.4	22.4	19.0	1.900	2.00	5.00
BXO-1600x1200	-14.25	1600	1200	2000	47.7	17.5	20.0	2.000	2.00	5.00
BXO-1600x1600	-14.25	1600	1600	2000	61.9	24.2	20.0	2.000	2.00	5.00
BXO-1600x2000	-14.25	1600	2000	2000	77.1	31.9	20.0	2.000	2.00	5.00
BXO-1800x1200	-14.25	1800	1200	2200	52.0	17.8	22.0	2.200	2.00	5.00
BXO-1800x1800	-14.25	1800	1800	2200	75.1	28.4	22.0	2.200	2.00	5.00

- (注) 1. 輪荷重はT-14, T-25とし、土被りは0.5~3.0mとする。
 2. 埋戻、転圧は、入念に行うこと。
 3. 必要により碎石基礎を行うこと。
 4. 調整用敷モルタルを使用してよい。

図面の名称	図面番号
道路横断工-3(既製品) 標準構造図	3-1

適用区分

- 原則として、表に示す寸法については、2次製品を使用すること。
- 現場打は、土地改良事業標準設計図面集「ボックスカルバート工」及び「利用の手引き」(平成11年3月農林水産省構造改善局)による。

算出基礎

(1/2)

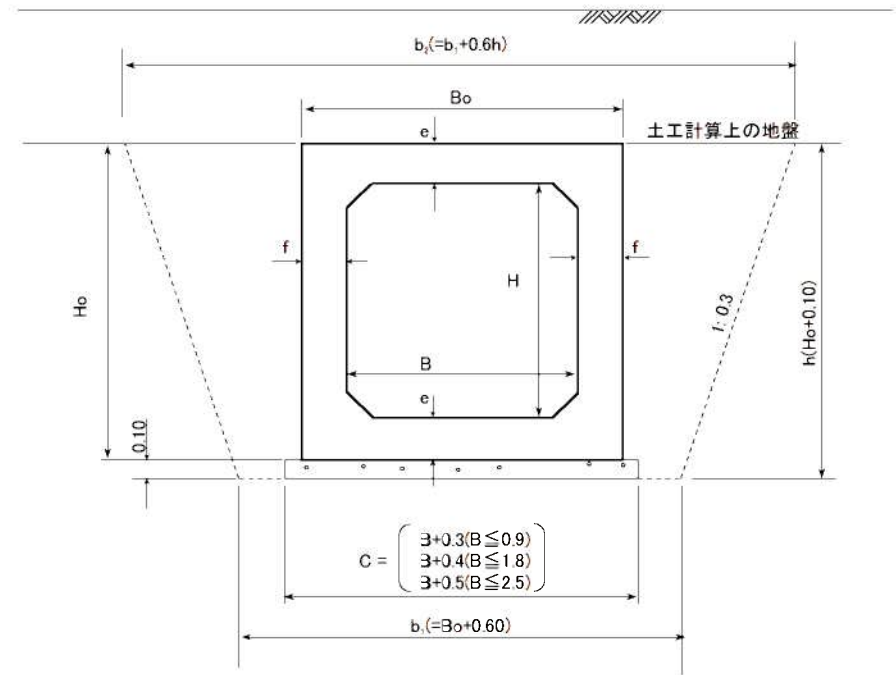
	B	H	e	f	Bo	Ho
BXO-300×250	300	250	75	60	420	400
BXO-300	300	300	90	90	480	480
BXO-360	360	360	90	90	540	540
BXO-400	400	400	100	100	600	600
BXO-450	450	450	100	100	650	650
BXO-500	500	500	100	100	700	700
BXO-600	600	600	120	100	800	840
BXO-800	800	800	130	110	1020	1060
BXO-900	900	900	130	110	1120	1160
BXO-1000×800	1000	800	140	120	1240	1080
BXO-1000×1000	1000	1000	140	120	1240	1280
BXO-1000×1200	1000	1200	140	120	1240	1480
BXO-1000×1600	1000	1600	140	120	1240	1880
BXO-1200×800	1200	800	140	120	1440	1080
BXO-1200×1000	1200	1000	140	120	1440	1280
BXO-1200×1200	1200	1200	140	120	1440	1480
BXO-1200×1600	1200	1600	140	120	1440	1880
BXO-1400×800	1400	800	140	120	1640	1080
BXO-1400×1200	1400	1200	140	120	1640	1480
BXO-1400×1400	1400	1400	140	120	1640	1680
BXO-1500×1000	1500	1000	160	130	1760	1320
BXO-1500×1200	1500	1200	160	130	1760	1520
BXO-1500×1500	1500	1500	160	130	1760	1820
BXO-1600×1200	1600	1200	160	130	1860	1520
BXO-1600×1600	1600	1600	160	130	1860	1920
BXO-1600×2000	1600	2000	160	130	1860	2320
BXO-1800×1200	1800	1200	170	140	2080	1540
BXO-1800×1800	1800	1800	170	140	2080	2140
BXO-2000×1500	2000	1500	180	150	2300	1860
BXO-2000×2000	2000	2000	180	150	2300	2360
BXO-2500×2000	2500	2000	200	180	2860	2400
BXO-2500×2500	2500	2500	220	200	2900	2940

(注)寸法は参考値である。

注意事項

- 土工量は本線と重複しないように注意すること。
- 車輛を縦断方向に走行させる場合は、別途検討すること。
- 寸法表の数値は参考値である。

B X O 型

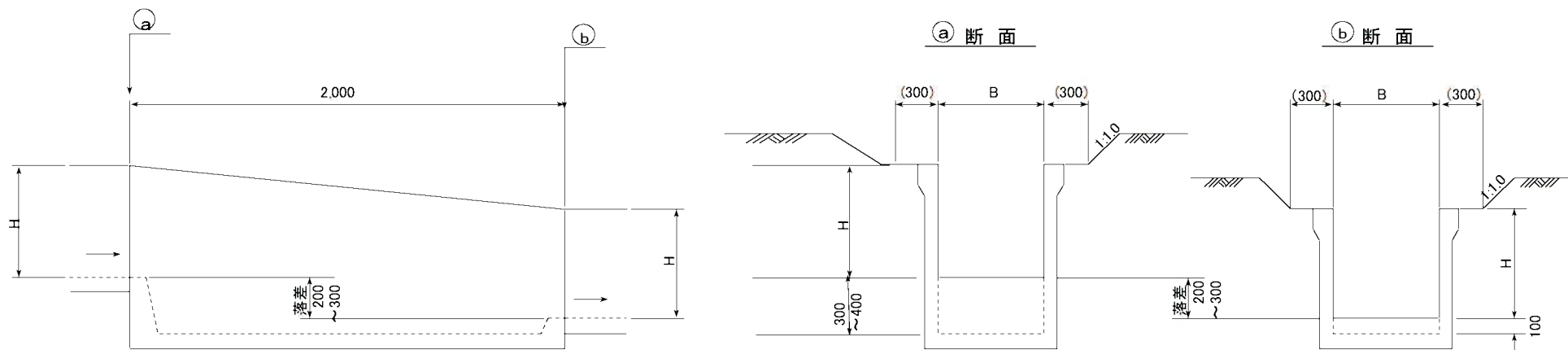


項目	算式	10m当り	単位	備考
掘削			m ³	
		$(b_1+0.3h) \times h \times 10$	〃	
埋戻			〃	
		$\{(b_1+0.3h) \times h - B_o \times H_o - C \times 0.1\} \times 10$	〃	
基面整正	$C \times 10$		m ²	
コンクリート(18N-D25)	$C \times 0.1 \times 10$		m ³	
砕石基礎			m ²	
型枠	$0.1 \times 2 \times 10$		m ²	

図面の名称	図面番号
道路横断工-3(既製品)	3-2
標準構造図	

落差工 - 1

凡 例	規格-落差-延長 × 力所 RD303-30-2m × 4
--------	----------------------------------



規格	寸法			数量				1力所当り 有孔U型 落差 本	備考
	B	H	落差	掘削	埋戻	整形工 (基面整)	法仕 面上		
	mm								
RD 303-30-2m	300	300	300	1.7	0.7	0.9	1.1	1	
" 404-30-2m	400	400	"	2.1	0.8	1.1	"	"	
" 505-20-2m	500	500	200	3.1	1.5	1.3	"	"	
" 606-20-2m	600	600	"	3.7	1.8	1.5	"	"	
" 806-20-2m	800	"	"	4.1	"	1.9	"	"	
" 1006-20-2m	1,000	"	"	4.5	"	2.3	"	"	
" 808-20-2m	800	800	"	5.0	2.3	1.9	"	"	
" 1008-20-2m	1,000	"	"	5.5	"	2.3	"	"	

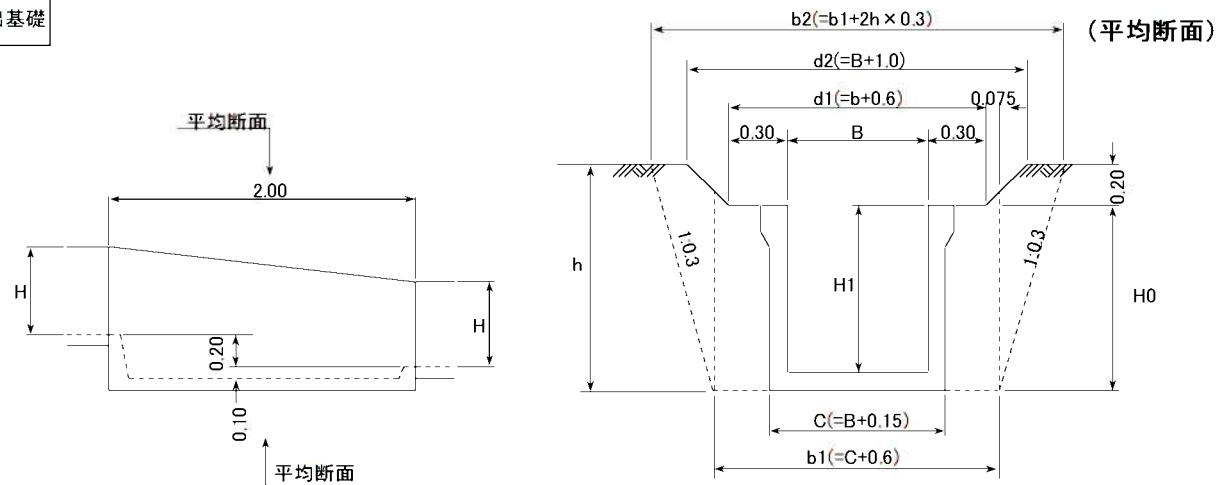
- (注)
1. 目地は、モルタル(配合1:3)を使用し、目地間隔は、10mm程度とする。
 2. 敷仕上げ、埋戻し、転圧は入念に行うこと。
 3. 屈曲部付近には、設置しないようにすること。
 4. 耕区界に設置することを、原則とする。
 5. 上下流取付部は、不等沈下が生じないようにすること。
 6. 現場条件に応じて必要により基礎砕石(RC-40)を計上する。

図面の名称	図面番号
落差工-2 標準構造図	4-1

適用区分

1. 主として、平坦地の落差調整に使用する。
2. 掘削幅に適した掘削機械規格の選定をする。

算出基礎



注意事項

1. 落差工の設置場所は、必要最小限にすることを原則とするが、地形状況等を考慮し、適切な落差工の組み合わせを検討すること。

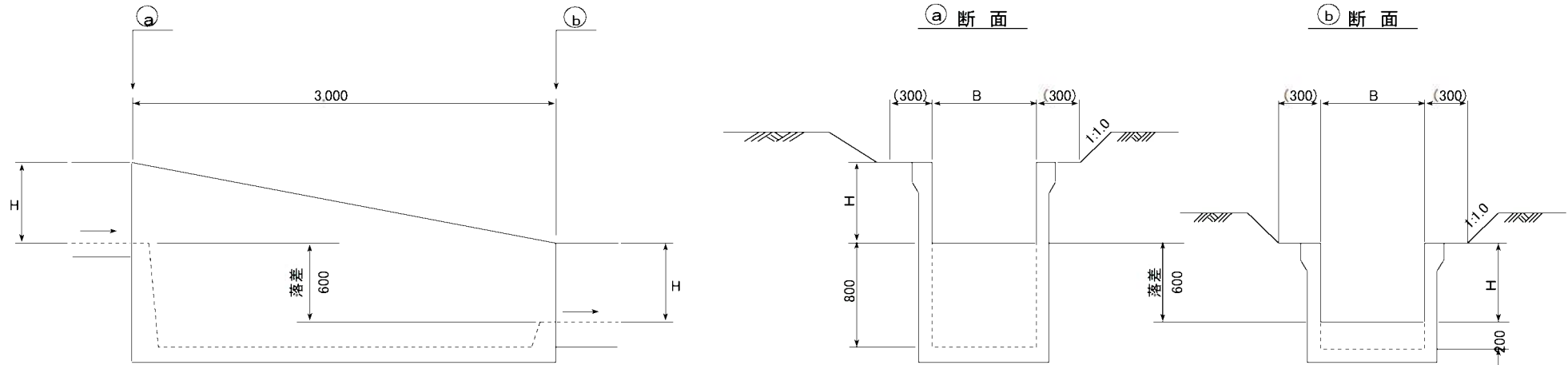
規格	寸法 (mm)										参考重量 kg
	B	H	C	Ho	H1	b1	b2	d1	d2	h	
RD 303-30-2m	300	300	450	580	500	1,050	—	900	1,300	780	530
RD 404-30-2m	400	400	550	680	600	1,150	—	1,000	1,400	880	644
RD 505-20-2m	500	500	650	790	700	1,250	1,844	1,100	1,500	990	879
RD 606-20-2m	600	600	750	890	800	1,350	2,004	1,200	1,600	1,090	1,004
RD 806-20-2m	800	800	950	1,095	1,000	1,550	2,204	1,400	1,800	1,295	1,111
RD 1006-20-2m	1,000	1,000	1,150	1,350	1,200	1,750	2,404	1,600	2,000	1,440	1,219
RD 808-20-2m	800	800	950	1,095	1,000	1,550	2,327	1,400	1,800	1,295	1,299
RD 1008-20-2m	1,000	1,000	1,150	1,350	1,200	1,750	2,527	1,600	2,000	1,440	1,412

項目	算式	1力所当り	単位	備考
掘削	$H \leq 400$	$\{(Ho \times b1) + (d1 + d2) \times 1/20.2 + (0.075)^2\} \times 2.0$	m ³	
	$H > 400$	$\{(b1 + b2) \times 1/2 \times h\} \times 2.0$		
埋戻	$H \leq 400$	$\{(Ho \times 0.3) \times 2 + (0.075)^2\} \times 2.0$	"	
	$H > 400$	$\{[(0.3 \times 2) + (h \times 0.3)] \times h - [0.6 - (C - B) + 0.2] \times 0.2\} \times 2.0$		
整形工(基面整正)	$C \times 2.0$		m ²	
法面仕上	$(0.2 \times \sqrt{2}) \times 2.0$		"	

図面の名称	図面番号
落差工-2 標準構造図	4-2

凡 規 格 - 落差 - 延長 × 力所
 例 RD606 - 60 - 3m × 2

落 差 工 - 2 道 路



規 格	寸 法			数 量				1力所当り 有孔U型 落 差	備 考
	B	H	落 差	掘 削	埋 戻	整 形 工 (基面整正)	法 面 上		
	mm								
RD 505-60-3m	500	500	600	6.7	3.5	2.2	1.7	1	
〃 606-60-3m	600	600	〃	7.8	3.9	2.5	〃	〃	
〃 806-60-3m	800	〃	〃	8.6	〃	3.1	〃	〃	
〃 1006-60-3m	1,000	〃	〃	9.5	〃	3.7	〃	〃	
〃 808-60-3m	800	800	〃	10.2	4.9	3.1	〃	〃	
〃 1008-60-3m	1,000	〃	〃	11.1	〃	3.7	〃	〃	
〃 1209-60-3m	1,200	900	〃	13.0	5.4	4.3	〃	〃	
〃 1010-60-3m	1,000	1,000	〃	12.9	5.9	3.7	〃	〃	

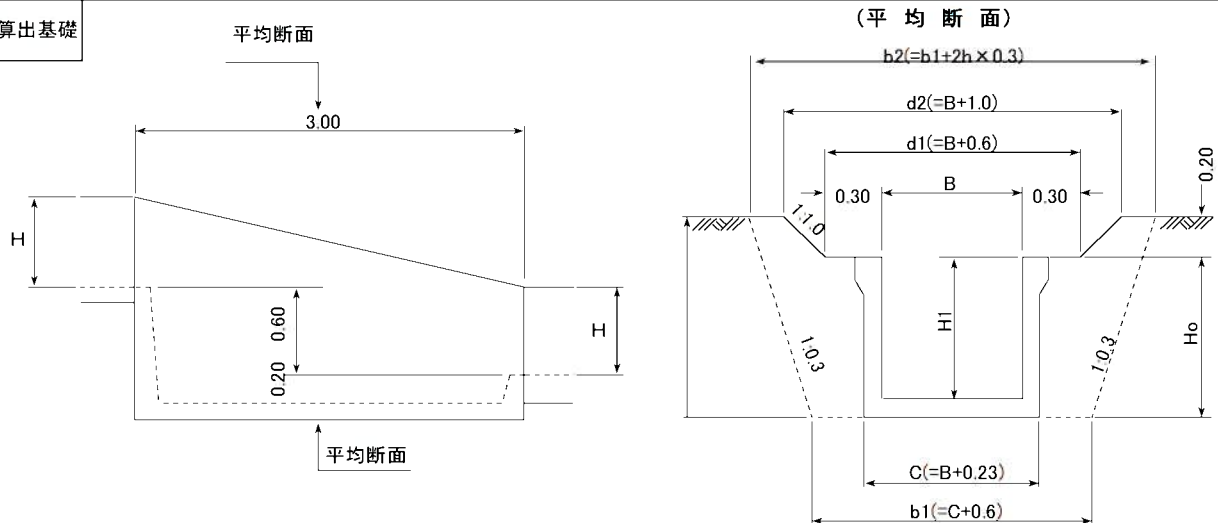
- (注)
- 目地は、モルタル(配合1:3)を使用し、目地間隔は、10mm程度とする。
 - 敷仕上げ、埋戻し、転圧は入念に行うこと。
 - 屈曲部付近には、設置しないようにすること。
 - 耕区界に設置することを、原則とする。
 - 上下流取付部は、不等沈下が生じないようにすること。
 - 現場条件に応じて必要により基礎碎石を計上する。

図面の名称	図面番号
落差工-3 標準構造図	5-1

適用区分

1. 主として、平坦地の落差調整に使用する。

算出基礎



注意事項

1. 落差工の設置場所は、必要最小限にすることを原則とするが、地形状況等を考慮し、適切な落差工の組み合わせを検討すること。

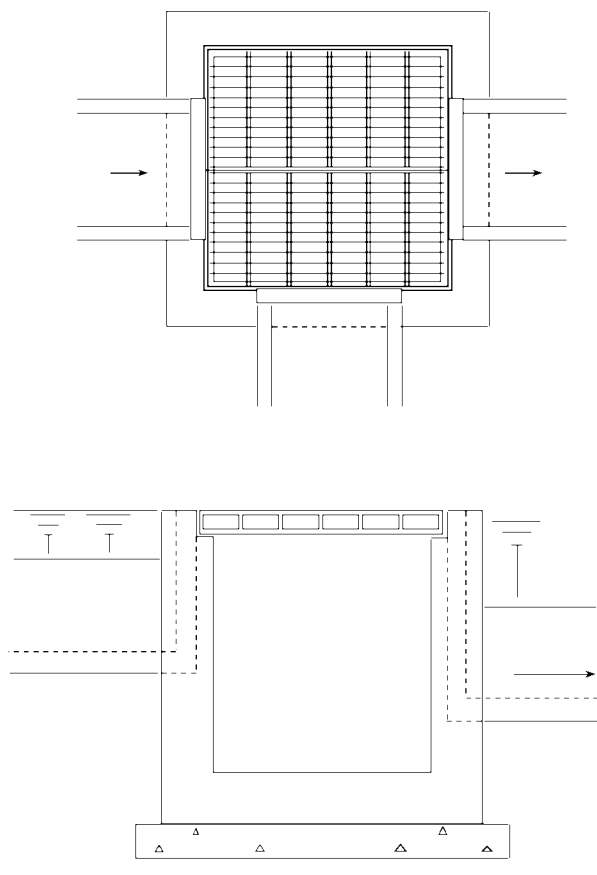
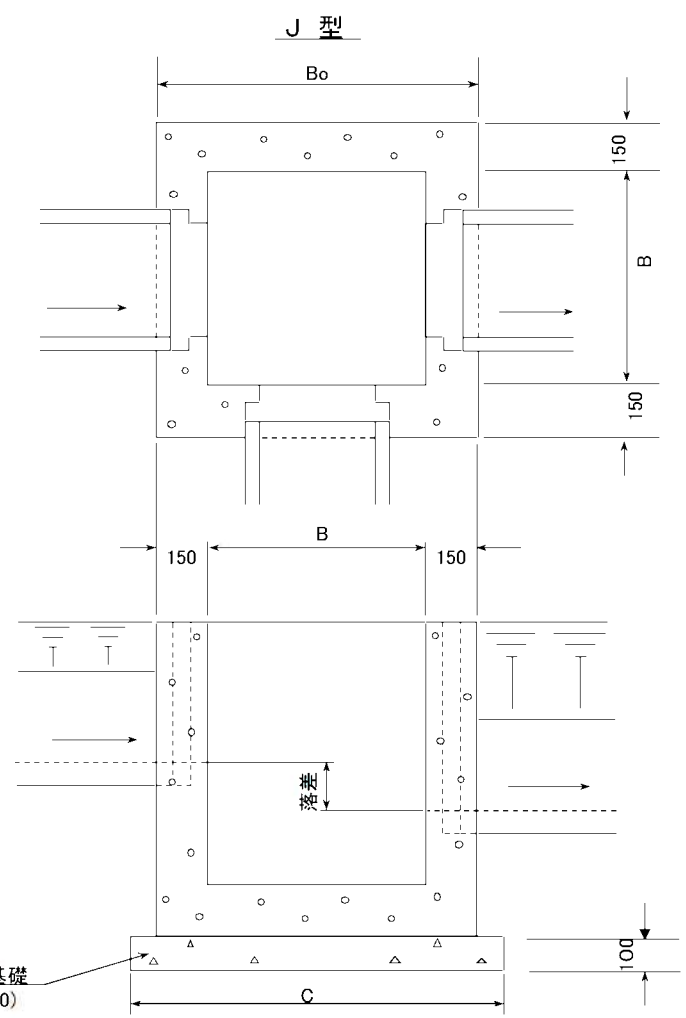
規格	寸法 (mm)										参考重量 kg
	B	H	C	Ho	H1	b1	b2	d1	d2	h	
RD 505-60-3m	500	500	730	1,100	1,000	1,330	2,110	1,100	1,500	1,300	2,017
" 606-60-3m	600	600	830	1,200	1,100	1,430	2,270	1,200	1,600	1,400	2,237
" 806-60-3m	800	"	1,030	"	"	1,630	2,470	1,400	1,800	"	2,431
" 1006-60-3m	1,000	"	1,230	"	"	1,830	2,670	1,600	2,000	"	2,626
" 808-60-3m	800	800	1,030	1,405	1,300	1,630	2,593	1,400	1,800	1,605	2,703
" 1008-60-3m	1,000	"	1,230	"	"	1,830	2,793	1,600	2,000	"	2,963
" 1209-60-3m	1,200	900	1,430	1,510	1,400	2,030	3,056	1,800	2,200	1,710	3,328
" 1010-60-3m	1,000	1,000	1,280	1,615	1,500	1,830	2,919	1,600	2,000	1,815	3,407

項目	算式	1カ所当り	単位	備考
掘削	$\{(b1+b2) \times 1/2 \times h\} \times 3.0$		m ³	
埋戻	$[\{(0.3 \times 2) + (h \times 0.3)\} \times h - \{0.6 - (C-B) + 0.2\} \times 0.2] \times 3.0$		"	
整形工(基面整正)	$C \times 3.0$		m ²	
法面仕上	$(0.2 \times \sqrt{2} \times 2) \times 3.0$		"	

図面の名称	図面番号
落差工-3 標準構造図	5-2

凡	型一規格 J-600
例	

継手水槽工-1 JG 型



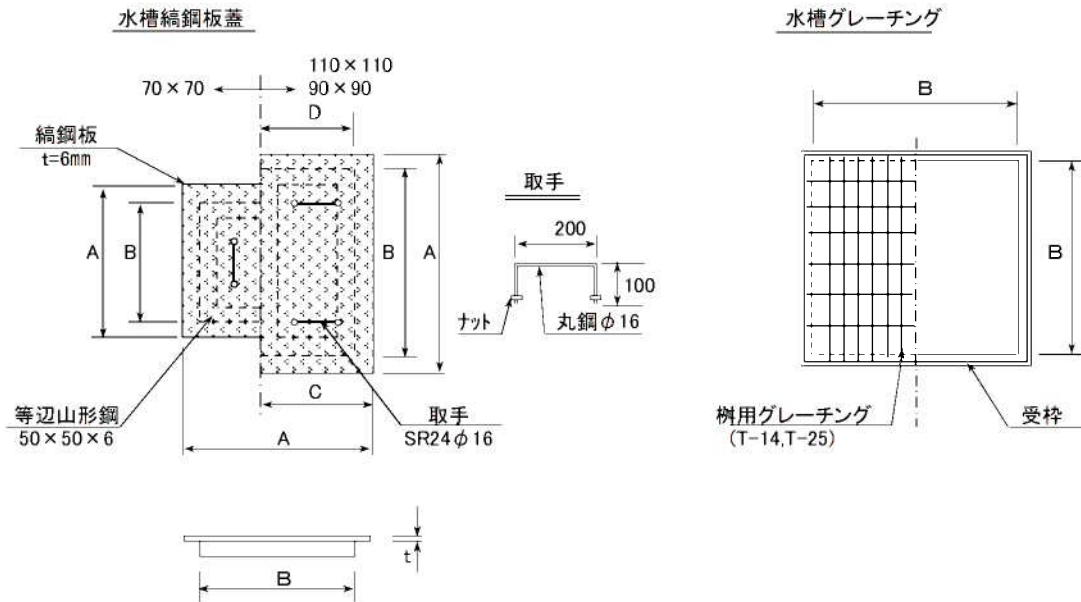
(注)

1. 水槽は、落差調整を兼ねることができる。この場合、溢水防止壁を考慮すること。
2. 水槽は現場状況により、変形することができる。
3. 分水及び、合流力所には、角落しを設けること。
4. ベンチリウムとの接続は、本体と一体化し、イモ継ぎは、行わないこと。
5. 埋戻し、転圧は入念に行うこと。
6. 輪荷重等危険ヶ所はJG型とする。
7. グレーチングはT-14、T-25とし、受け枠付き分割タイプ落込式とする。
8. 欠口により部材寸法が小さくなる場合は鉄筋により補強する。
9. コンクリート18N-D25の水セメント比は60%以下とする。

規格	寸法				数量						適用範囲
	B	B0	C	H	掘削	埋戻	整形工 (基面整正)	コンクリート (18N-D25)	砕石基礎 (RC-40)	1カ所当り 型枠	
J JG -600	600	900	1,100	500~800	3.1	2.3	1.2	0.347	1.2	3.54	水路内巾400まで
J JG -800	800	1,100	1,300	700~1000	4.6	3.3	1.7	0.551	1.7	5.58	" 600まで
J JG -1000	1,000	1,300	1,500	900~1200	6.6	4.4	2.3	0.788	2.3	7.90	" 800まで

図面の名称	図面番号
継手水槽工-1 標準構造図	6-1

水槽綯鋼板蓋、水槽グレーチング



規格	寸法					数量				備考
	A	B	C	D	t	綯鋼板 (t=6)	山形鋼 50×50×6	鉄筋 (φ16)	塗装 (2回塗)	
	mm						kg		m ²	
70×70	700	590	—	—	6.0	23.90	10.45	1.26	0.98	
90×90	900	790	450	395	6.0	39.50	21.00	2.53	1.62	2分割
110×110	1,100	990	550	495	6.0	59.01	26.31	2.53	2.42	2分割

(注) 1. 綯鋼板蓋の設置場所は監督員の指示による。塗装は一般サビ止塗装(2回塗り)を行う。

規格	寸法		数量		備考
	B	グレーチング (T-14,25)	1カ所当り 受枠	1カ所当り	
	mm	枚	組		
60×60	600	1	1		
80×80	800	1	1		
100×100	1,000	1	1		

(注) 1. 水槽グレーチング設置場所は監督員の指示による。

水槽綯鋼板蓋

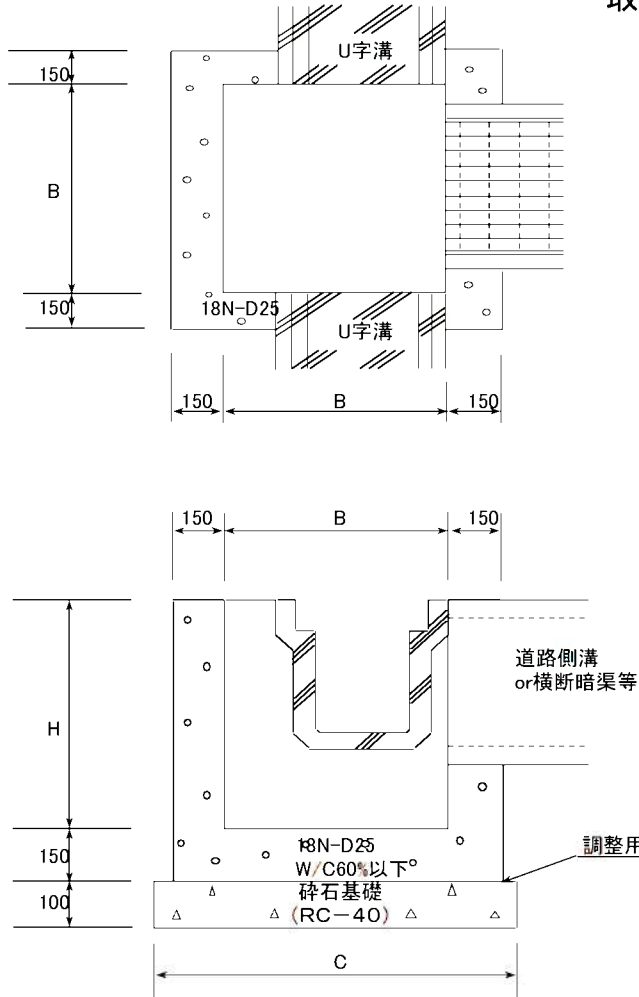
規格	寸法				
	A	B	C	D	t
	mm				
70×70	700	590	—	—	6.0
90×90	900	790	450	395	6.0
110×110	1,100	990	550	495	6.0

項目	算式	1カ所当り	単位	備考
綯鋼板 (t=6.0)	$(A \times A) \times 48.77 \text{kg/m}^2$		kg	
等辺山形鋼 (50×50×6)	$(B \times 4) \text{or} (B \times 4 + D \times 4) \times 4.43 \text{kg/m}$		kg	
鉄筋 (SR24φ16)	$(0.4 \times 2) \text{or} (0.4 \times 4) \times 1.58 \text{kg/m}$		kg	
塗装	$A \times A \times 2$		m ²	

項目	Dの計算	Eの計算
60×60	$(0.42 \times 0.465) \times 0.15 \times 3 = 0.088$	$(0.42 \times 0.465) \times 3 = 0.586$
80×80	$(0.52 \times 0.585) \times 0.15 \times 3 = 0.137$	$(0.52 \times 0.585) \times 3 = 0.913$
100×100	$(0.73 \times 0.815) \times 0.15 \times 3 = 0.268$	$(0.73 \times 0.815) \times 3 = 1.785$

図面の名称	図面番号
水槽綯鋼板蓋、水槽グレーチング 標準構造図	6-2

取付水槽



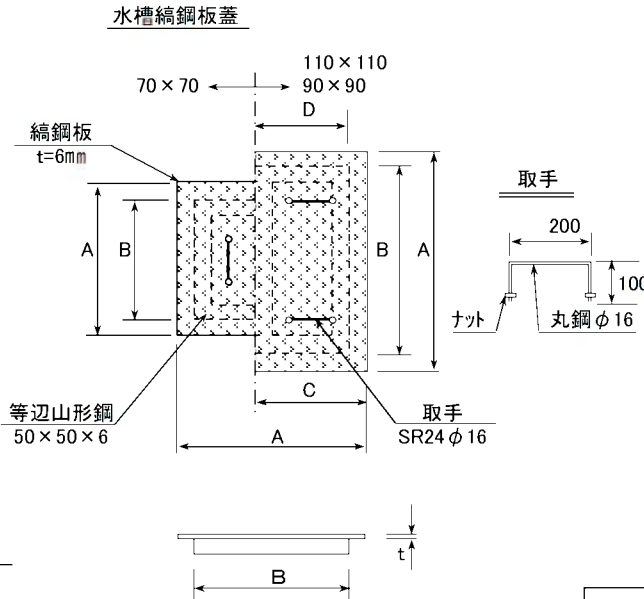
取付水槽

規格	寸法			数量			1カ所当り	備考
	B	H	C	コンクリート	碎石基礎	型枠	敷仕上	
				18N-D25	(RC-40)	枠	数	
	mm			m ³	m ²	m ²	m ²	
60×60	600	600	1,100	0.304	1.21	3.55	1.21	断面400×400以下
80×80	800	800	1,300	0.501	1.69	5.83	1.69	断面600×600以下
100×100	1,000	1,000	1,500	0.676	2.25	8.20	2.25	断面800×800以下

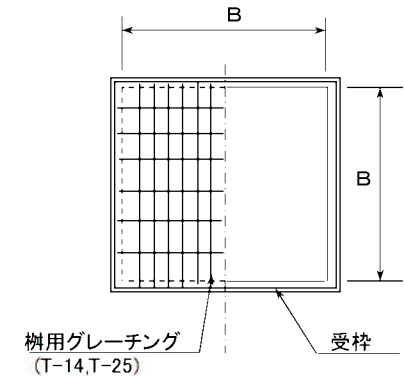
- (注) 1. 分水及び合流力所には角落としを設けること。
 2. 危険力所にはグレーチングまたは、縞鋼板蓋を設置すること。
 3. 構造上危険と判断される部分については、用心鉄筋等の配筋を考慮する事。

規格	水槽縞鋼板蓋					数量			1カ所当り	備考
	A	B	C	D	t	縞鋼板	山形鋼	鉄筋	塗装	
						(t=6)	50×50×6	(φ16)	(2回塗)	
	mm					kg			m ²	
70×70	700	590	—	—	6.0	23.90	10.45	1.26	0.98	
90×90	900	790	450	395	6.0	39.50	21.00	2.53	1.62	2分割
110×110	1,100	990	550	495	6.0	59.01	26.31	2.53	2.42	2分割

(注) 1. 縞鋼板蓋の設置力所は監督員の指示による。塗装は一般サビ止塗装(2回塗り)を行う。



水槽グレーチング



規格	水槽グレーチング		1カ所当り	備考
	寸法	数量	受枠	
			組	
	B	グレーチング (T-14,25)		
	mm	枚	組	
60×60	600	1	1	
80×80	800	1	1	
100×100	1,000	1	1	

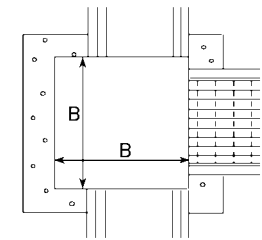
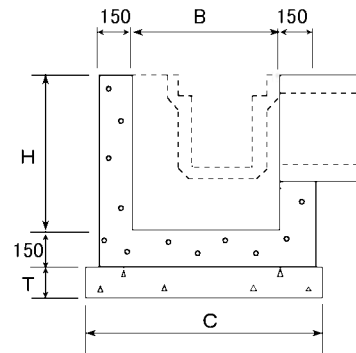
(注) 1. 水槽グレーチング設置力所は監督員の指示による。

図面の名称	図面番号
取付水槽標準構造図	6-3

適用区分

1. 道路横断側溝及び道路横断暗渠と道路側溝等の接合部に使用する。
2. 60×60タイプは流入出断面400×400mm以下を標準とする。
80×80タイプは流入出断面600×600mm以下を標準とする。
100×100タイプは流入出断面800×800mm以下を標準とする。
流入出断面の平積による材料の変更は行わない。
3. 危険な箇所及び、道路隔切り等自動車荷重が予想される箇所はグレーチングを設置する。
現場条件を考慮し、縞鋼板蓋を設置してもよい。

算出基礎



取付水槽

規格	寸法			
	B	H	C	T
	mm			
60×60	600	600	1,100	100
80×80	800	800	1,300	100
100×100	1,000	1,000	1,500	100

項目	算式	1力所当り	単位	備考
コンクリート	$(B+0.30)^2 \times (H+0.15) - (B \times H) - D$		m ³	
18N-D25				
型枠	$(B+0.30) \times (H+0.15) \times 4 + B \times H \times 4 - E$		m ²	
碎石基礎	C×C		m ²	
RC-40				
敷仕上	C×C		m ²	

注意事項

1. 縦断勾配、横断勾配、道路横断溝と中心線の交差角等を考慮して設置する。
2. 構造上危険と判断される部分については、用心鉄筋等考慮すること。

水槽縞鋼板蓋

規格	寸法				
	A	B	C	D	t
	mm				
70×70	700	590	-	-	6.0
90×90	900	790	450	395	6.0
110×110	1,100	990	550	495	6.0

項目	算式	1力所当り	単位	備考
縞鋼板	$(A \times A) \times 48.77 \text{kg/m}^2$		kg	
(t=6.0)				
等辺山形鋼	$(B \times 4) \text{or} (B \times 4 + D \times 4)$		kg	
(50×50×6)	$\times 4.43 \text{kg/m}$			
鉄筋	$(0.4 \times 2) \text{or} (0.4 \times 4)$		kg	
(SR24 φ16)	$\times 1.58 \text{kg/m}$			
塗装	A×A×2		m ²	

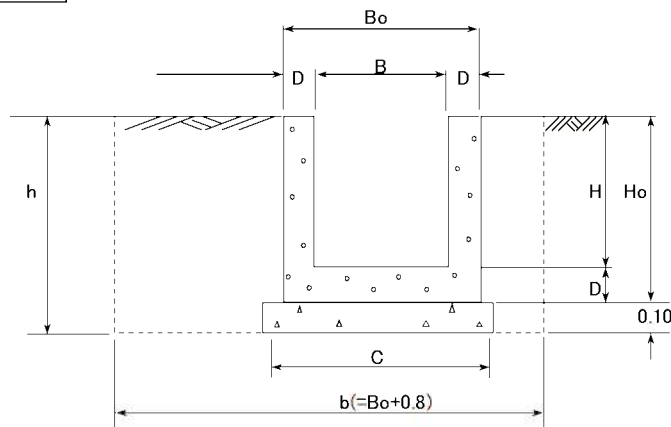
項目	Dの計算	Eの計算
60×60	$(0.42 \times 0.465) \times 0.15 \times 3 = 0.088$	$(0.42 \times 0.465) \times 3 = 0.586$
80×80	$(0.52 \times 0.585) \times 0.15 \times 3 = 0.137$	$(0.52 \times 0.585) \times 3 = 0.913$
100×100	$(0.73 \times 0.815) \times 0.15 \times 3 = 0.268$	$(0.73 \times 0.815) \times 3 = 1.785$

図面の名称	図面番号
取付水槽標準構造図	6-4

適用区分

1. 水路内幅、800mmまでの水路の合流部、分水力所、及び屈曲部等に設置する。
2. 掘削幅に適した掘削機械規格の選定をする。

算出基礎



記号	寸法 (mm)		
	J-600	J-800	J-1000
S	600	800	1,000
H	600	800	1,000
C	1,100	1,300	1,500
D	150	150	150
B ₀	900	1,100	1,300
H ₀	750	950	1,150
b	1,900	2,100	2,300
h	850	1,050	1,250
A	0.15 m ²	0.29 m ²	0.52 m ²

A:取付平均断面積 (m²)

項目	算式	1力所当り	単位	備考
掘削	$b \times b \times h$		m ³	
埋戻	$\{(H_0 \times 0.5) + (0.1 \times 0.4)\} \times (B_0 + 0.5) \times 4$		m ³	
整形工(基面整正)	$C \times C$		m ²	
碎石基礎	$C \times C$		m ²	
コンクリート	$(B_0 \times B_0 \times H_0) - \{(B \times B \times H) + (A \times 0.15 \times 2)\}$		m ³	
型枠	$\{(B \times H) + (B_0 \times H_0) - A\} \times 4$		m ²	

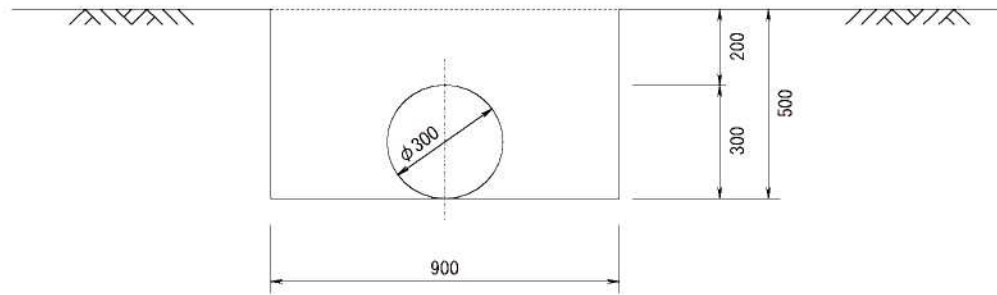
注意事項

1. 上下流敷高には、落差を設けるよう考慮すること。
2. 沈砂部の深さは、10cm程度とすること。
3. 角落としの溝寸法は、2×2cm程度を基準とする。

図面の名称	図面番号
継手水槽工-1 標準構造図	6-5

凡
例

PE φ 300

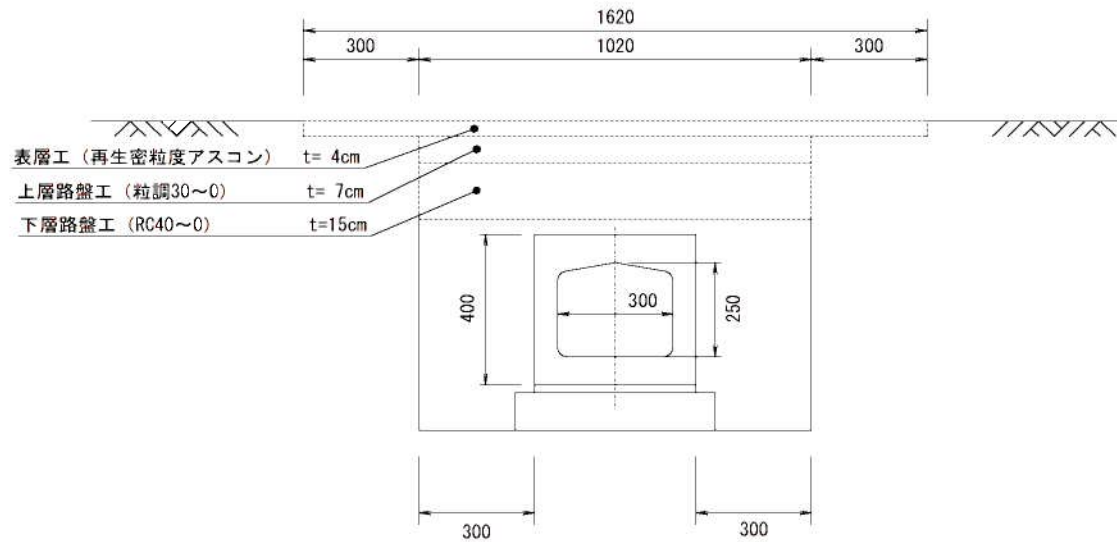


規 格	寸 法	数 量				備 考
	φ (mm)	掘削 (m ³)	埋戻 (m ³)	基面整正 (m ²)	10m当り PE 管 (本)	
PE	300	4.5	3.8	9.0	2.00	

図面の名称	図面番号
PE φ 300 標準構造図	7

凡
例

市道横断工断面図



取り壊し数量 10m当り

名称	数量	摘要
舗装カット	20.0m	両側
舗装取り壊し (T=4cm)	16.20㎡	

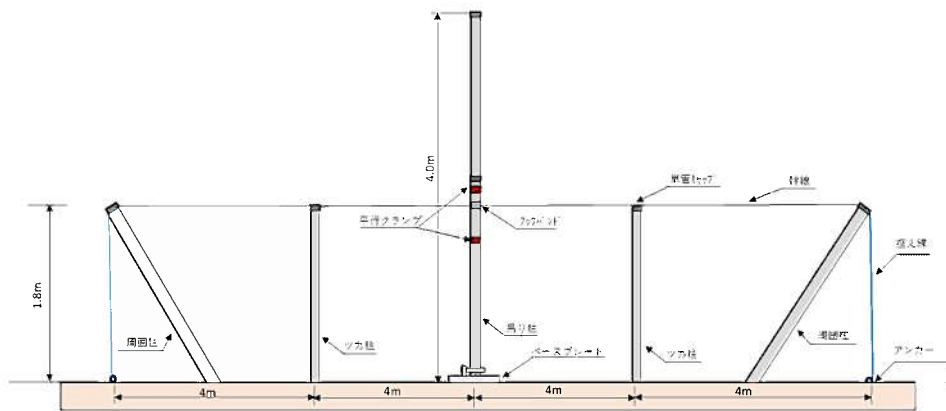
舗装復旧数量 10m当り

名称	数量	摘要
表層 (T=4cm)	16.20㎡	再生密粒アスコン
上層 (T=7cm)	10.20㎡	粒調30~0
下層 (T=15cm)	10.20㎡	RC40~0

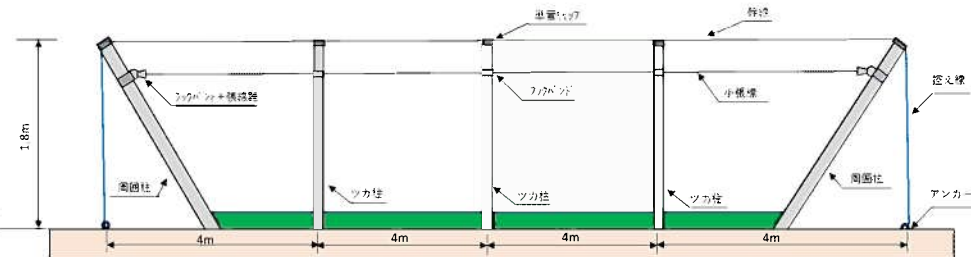
図面の名称	図面番号
PE φ 300 標準構造図	8

果樹棚

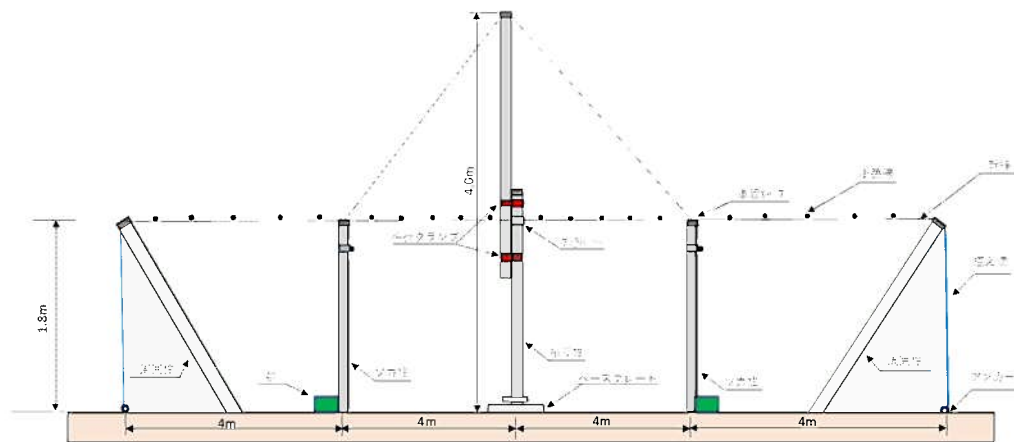
凡	
例	



吊り柱列側面図



畝列側面図

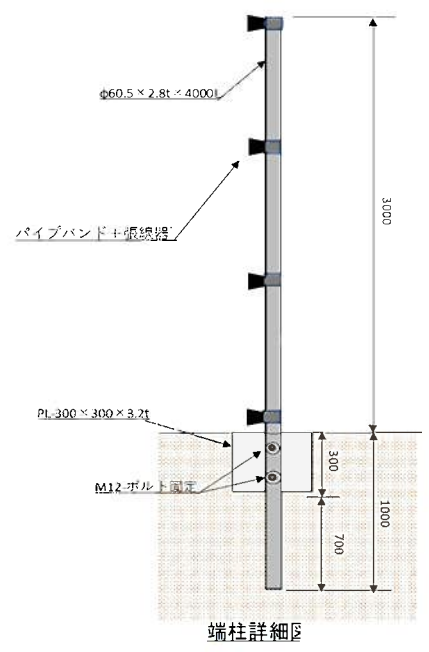
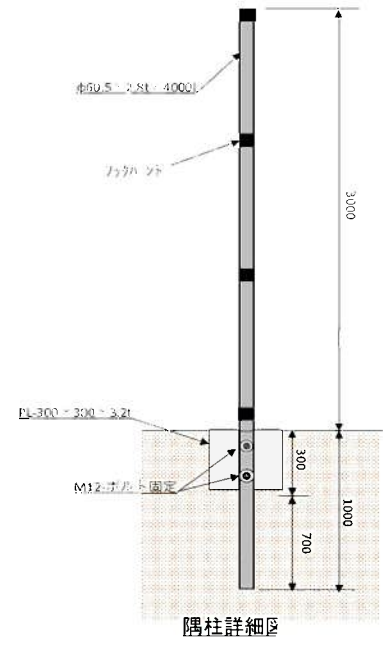
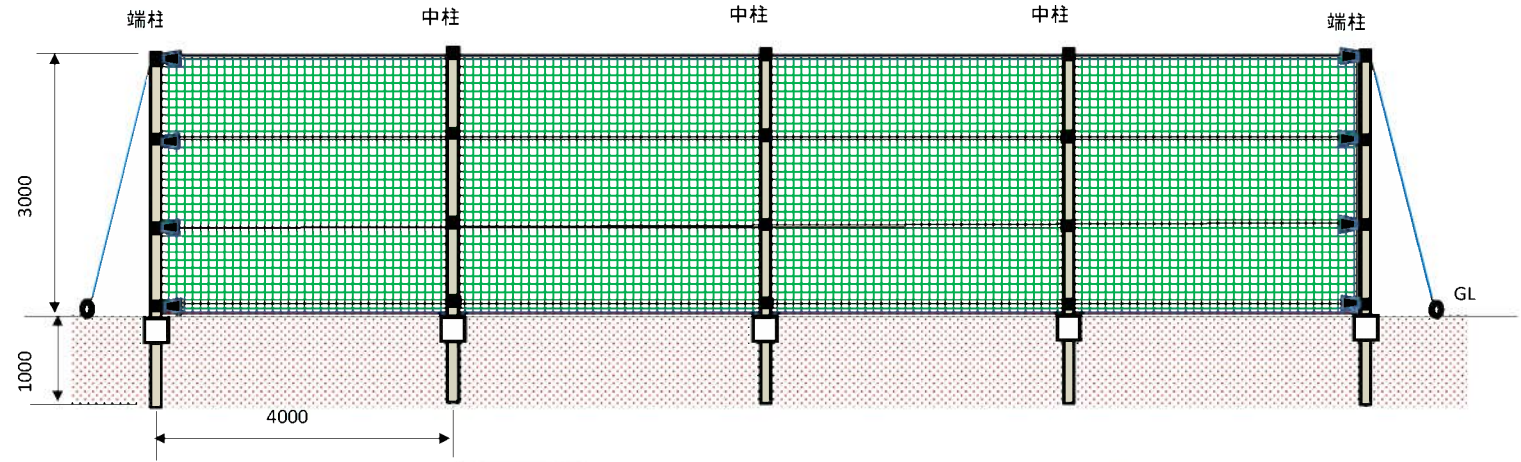


畝方向断面図

図面の名称	図面番号
果樹棚 標準構造図	9

凡
例

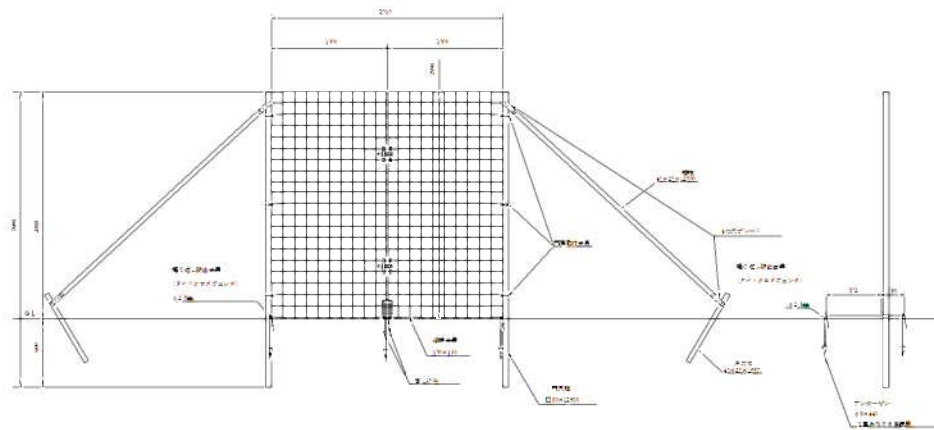
防風網



図面の名称	図面番号
防風網 標準構造図	10

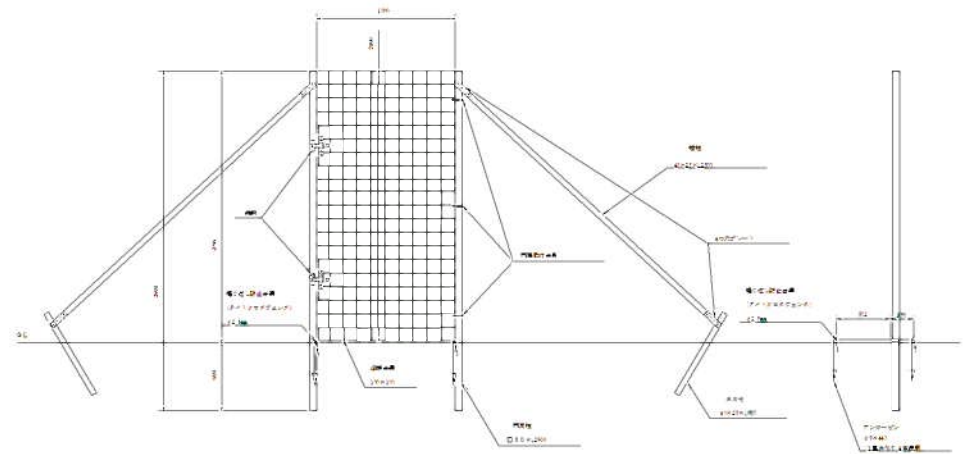
防獣柵

2.0m門扉構造図



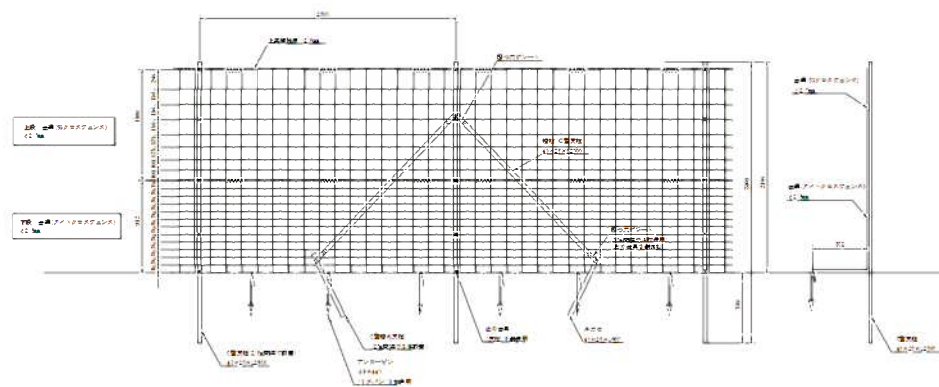
品名	仕様	数量
鋼製門扉	HC 0471.0	1 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
アンカーボルト	φ19×440	4 本

1.0m門扉構造図



品名	仕様	数量
鋼製門扉	HC 0471.0	1 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
アンカーボルト	φ19×440	4 本

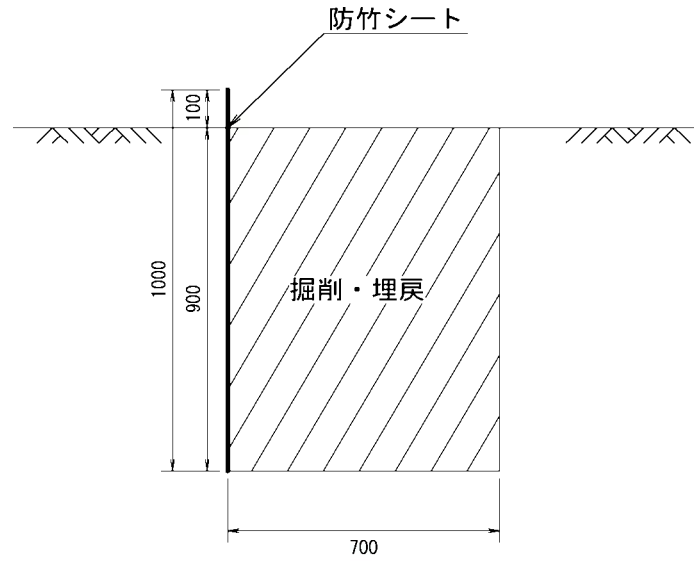
獣害防止柵構造図



品名	仕様	数量
鋼製柵	LC 100 100 100 100 100	1 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
アンカーボルト	φ19×440	4 本
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚
鋼製L型取付金具	LC 100 100 100 100 100	2 枚

図面の名称	図面番号
防獣柵 標準構造図	11

防竹シート工

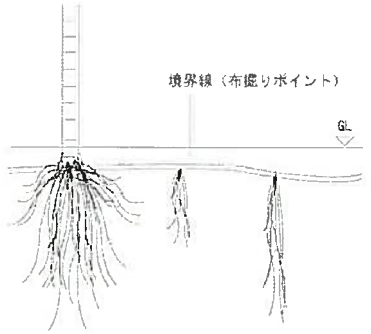


名称	数量	摘要
掘削	63.0m ³	
防竹シート	100m	高さ1.00m
埋戻	63.0m ³	

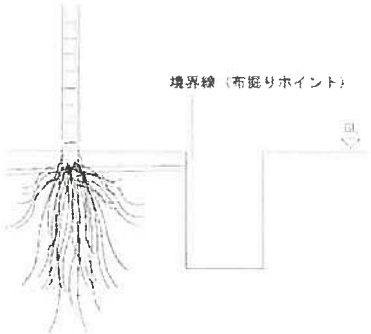
図面の名称	図面番号
防竹シート工	12-1

凡	
例	

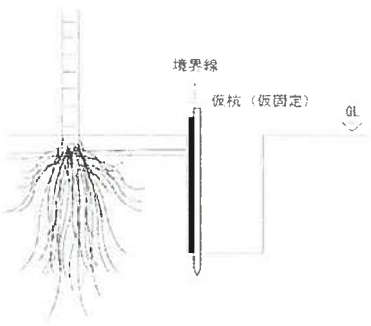
防竹シート施工方法



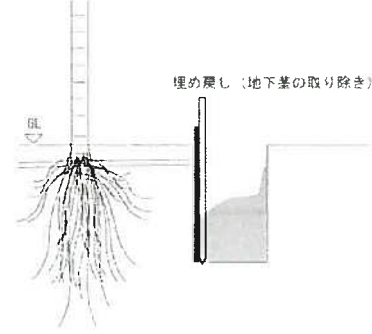
【施工手順1】シート設置場所の特定
 水系・ライン引き等で通りを出し布掘りする。



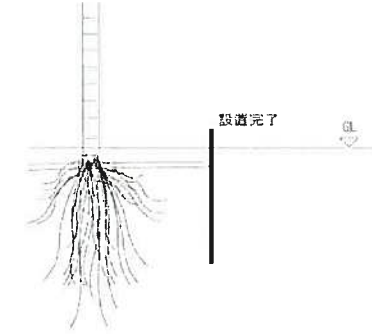
【施工手順2】布掘り
 布掘りは巾70cm～1m(人が入れる程度のスペース)で深さを約1mを推奨します。布掘り時に境界外にはみ出た地下茎の伐根処理は行なってください。



【施工手順3】設置・仮固定
 シートの設置中、仮杭を地面に打ち込みシートが倒れないように固定する。
 ※この場合、シートに釘などで穴を開けないで下さい。杭のピッチは1m～2mピッチに打ち込んでください。
 仮杭にGLより5cm上部に墨打ちを行い、水平を保ち、埋め戻しの際に高さ調整をしてください。



【施工手順4】埋め戻し
 ・埋め戻しの際、掘返した土壌の中に地下茎が混ざっている場合、完全に取除いておく。
 (地下茎をそのまま埋め戻してしまうと、生長が新しく始まってしまいます。)
 ・ある程度、埋め戻しながら、人力により土壌を踏み固め、仮杭を徐々に引上げていく。



【施工手順5】転圧
 ・埋め戻した土を転圧する。
 ※密度が低く養分が均等に行渡っているため、地下茎の活動制限がかからずシート接触後、地下茎が地下へ侵出する恐れがあるので、ランマ・転圧機による機材で、土壌密度を高くする。
 ・転圧後、施工完了となる。

注意事項

- ・竹の特性を考慮しGLから5cm～10cm程度、シートの高さ設定が重要な点となる。
- ・埋設時の設定寸法の許容範囲は、タテ0～30mm/ヨコ0～100mm以内とする。
- ・1箇所接続部で、裏表2箇所を専用接続テープによる処理を行なう。未処理では、ラップ部に接触した後、先端部が鋭い為、地下茎が外部へ侵攻する恐れがある。
- ・布掘り幅は、施工が十分に行える余裕が必要である。(75cm以上とする)
- ・ラップは1m以上とする
- ・シート敷設後の転圧作業
- ・シートの仮固定
- ・仮固定杭は、2m間隔がもっとも施工性が良い

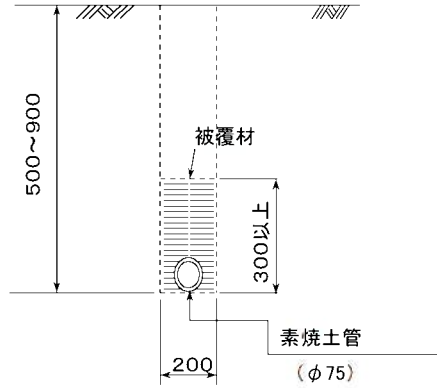
図面の名称	図面番号
防竹シート工 施工方法	12-2

暗渠排水工

凡	規格 × 延長
例	K-SU75T × 60 →

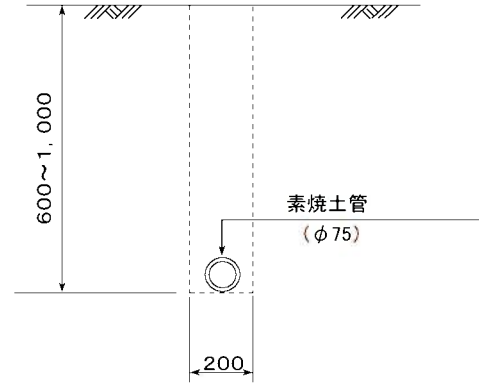
吸水渠工

K-SU75T



集水渠工

S-SU75T

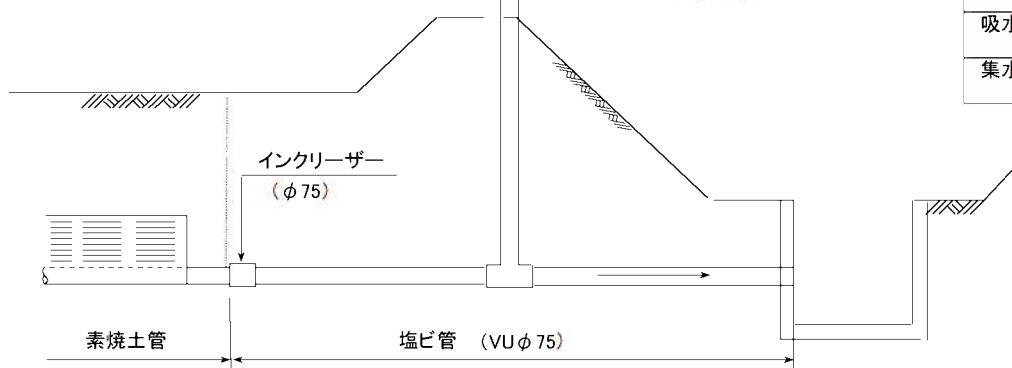


水閘工

SK-VU75

水閘

塩ビ製 (φ75)



規格	数量					備考	
	掘削	埋戻	被覆材 口入は含む	素焼土管 (φ75×450)	塩ビ管 (VUφ75)		
吸水渠	K-SU75T	14.0	8.0	7.0	222	1	素焼管 もみ殻
集水渠	S-SU75T	16.0	16.0	—	222	—	素焼管

(異形管類: キャップ、曲管、T字管など)

- (注)
- 吸水渠は、管のソケットを上流側とし、掘削深は、0.7mを標準とする。
なお、やむをえない場合は、0.5m以上まで許容するものとする。
 - 吸水路の勾配は、1/100~1/600程度とし、凹凸のないよう布設すること。
 - 被覆材は、モミガラ等、地区に適した材料を使用することができる。
被覆材の圧密等による割増率は、もみ殻30%を標準とする。
 - 上流端には、土砂等が侵入しないよう、キャップをつけること。

規格	数量				1カ所当り	備考
	掘削	埋戻	塩ビ管 (VUφ75)	水閘 (VUφ75)	インクリーザ (φ75)	
SK-VU75	1.9	1.9	1	1	1	

- (注)
- 吸水渠がVUのときは、インクリーザは除く
 - 標準を4mとするが、水路までの距離がある場合は、別途計上する。

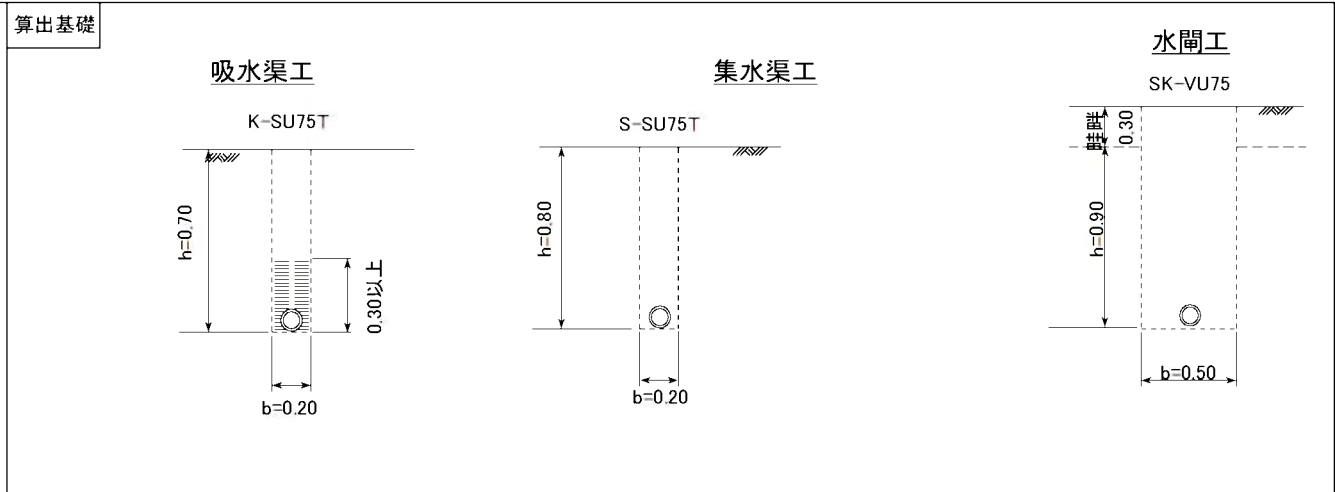
図面の名称	図面番号
暗渠排水工 標準構造図	13-1

適用区分

- 原則として、トレンチャー掘削とし、K-SU75T、S-SU75T型を使用する。
- 集水渠は、吸水を必要としない導水路に使用する。

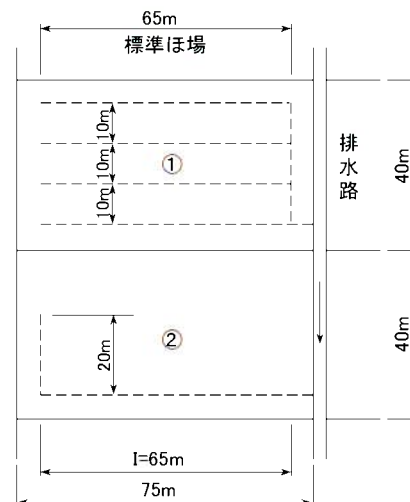
注意事項

- 吸水渠の流末(畦畔部等)は、被覆材を施工しないが、積算上は吸水渠とする。ただし、その延長が、5m程度以上となる場合は、集水渠で設計すること。
- 管の合流点は、十字配管を避けて、T字配管とすること。
- 埋戻しは、被覆材を施工後、一定期間放置し、排除効果のみてから、実施すること。
- 被覆材がもみ殻では、m3当り100kgを標準とする。
なお、これによりがたい場合は、別途検討する。
- 素焼管は、外廻りがミゾ付で φ75 ではL=45cmとする



項目	算式	100m当り	単位	備考
吸水渠工	掘削	$b \times h \times 100.0 = b \times 70.0$	m ³	
	埋戻し	$b \times h \times 100.0 = b \times 70.0$ — 被覆材の量	〃	
	被覆材	$T : 0.2 \times 0.3 \times 100.0 \times = 6.0$	〃	
集水渠工	掘削	$b \times h \times 100.0 = b \times 80.0$	m ²	
	埋戻し	〃	〃	
水閘工 (1力所当り)	掘削	$(b \times h \times 4.0) + * 0.12 = (0.5 \times 0.9 \times 4.0) + * 0.12 = 1.9$	m ³	* 0.12は畦畔部分
	埋戻し	〃	〃	

吸水渠の被覆材量から管外径分を除く(φ75では、A=0.0062m²)
被覆材の圧密等による割増率は、もみ殻30%を基準とする。



異形管率(素焼土管の場合)
※塩ビ管の場合は14-2を参照

項目	算式 (平成17年度単価)	
	①	②
キャップ	$4^{\frac{1}{2}} \times 60^{\frac{1}{2}} = 240^{\frac{1}{2}}$	$1^{\frac{1}{2}} \times 60^{\frac{1}{2}} = 60^{\frac{1}{2}}$
90° 曲管	$1^{\frac{1}{2}} \times 180^{\frac{1}{2}} = 180^{\frac{1}{2}}$	$1^{\frac{1}{2}} \times 180^{\frac{1}{2}} = 180^{\frac{1}{2}}$
T字管	$3^{\frac{1}{2}} \times 220^{\frac{1}{2}} = 660^{\frac{1}{2}}$	
直管	$290^{\frac{1}{2}} \times 233^{\frac{1}{2}} = 67,570^{\frac{1}{2}}$	$85^{\frac{1}{2}} \times 233^{\frac{1}{2}} = 19,805^{\frac{1}{2}}$
異形管率	1.60 %	1.21 %
	1.4%	

図面の名称	図面番号
暗渠排水工 標準構造図	13-2